



# 埋文だより

第71号

平成28年10月31日発行



新たに発見された水路跡



## 田園に浮かぶ巨大工場群

敷根火薬製造所は、集成館事業の一環として文久3（1863）年に薩摩藩が設立した当時としては国内最新・最大級の火薬工場でした。上野原台地を削って平野に流れ出る高橋川の扇状地に、傾斜地形を生かして建設された施設群は、主に3つのエリア（A：水車動力による原料粉碎施設群、B：大型水車を中心とする火薬精製施設群、C：応接施設などを含む事務・管理棟群）からなると考えられ、敷地面積25,000㎡にも及ぶ広大なものでした。

平成27年度に引き続き2回目となる今回の調査は、昨年度と同じくAのエリアにおいて、前回未調査の地点で水車跡・水路跡を見つけることを目標に実施しました。

（2ページに関連記事）

### 目次

- ・田園に浮かぶ巨大工場群…………… 1
- ・遺跡公開 現地説明会開催…………… 2・6
- ・百聞は一見に如かず 他…………… 3
- ・発見！発掘速報…………… 4～5

# 遺跡公開！ 現地説明会開催

## 敷根火薬製造所跡

平成 28 年 7 月 23 日（土）に敷根火薬製造所跡（霧島市）で現地説明会が開催されました。昨年は、雨の中での開催でしたが、今年はきれいな夏空が広がり暑い一日となりましたが、およそ 200 名の見学者が訪れ担当者の説明に耳を傾けていました。



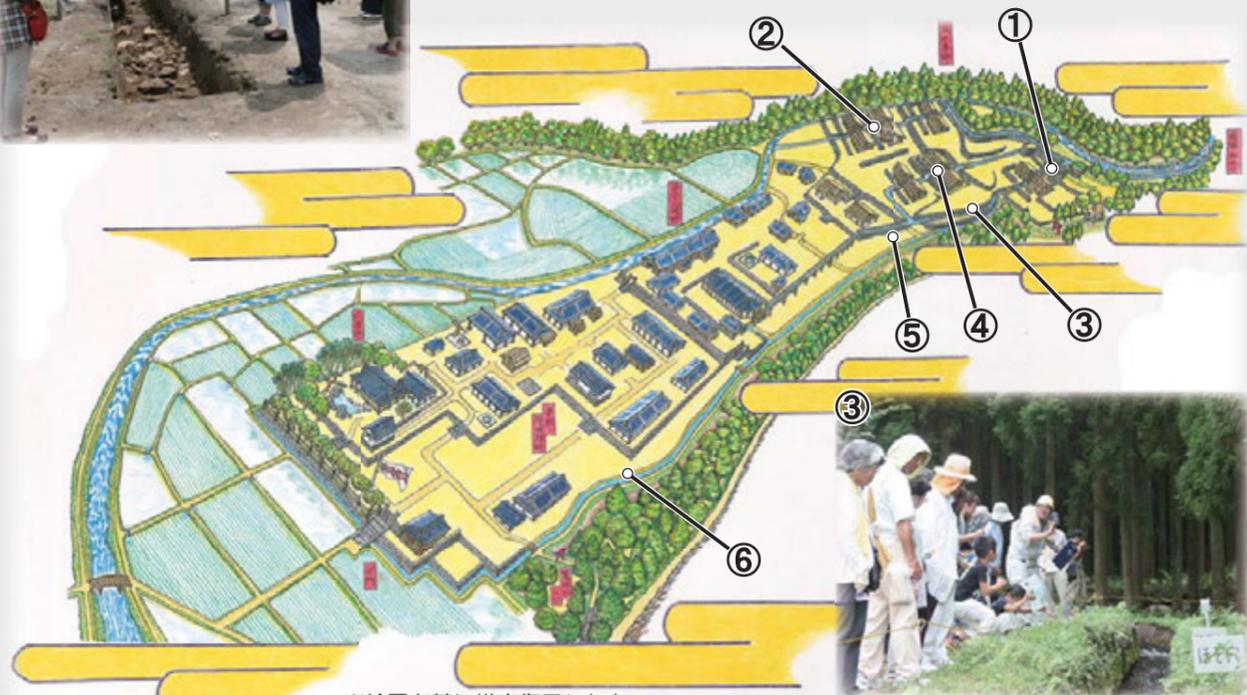
滝之上火薬製造所（鹿児島市稲荷町）の分局として文久 3（1863）年に建設された敷根火薬製造所は、薩摩藩の集成館事業の一環として設置され、他藩に先んじた近代化の中核をなすものと位置づけられます。

導水路により高橋川の水を引き込み、のべ 8 基（推定）の水力動力を駆使して石臼を動かし、原料を粉碎して年間 24 トンの火薬を生産していたとされています。廃藩置県後の 1872（明治 5）年には政府管轄となり、明治 10（1877）年 3 月 10 日、西南戦争において西郷軍への弾薬補給分断のため、政府軍によって焼き払われます。

製造所跡地は、その多くが水田となっていますが、当時のものと考えられる石垣があちこちに残っており、水車への導水路

の一部は、農業用水路として現在も活用されています。

今年度の調査では、表紙写真にある水路跡が発見されています。昨年度の調査で確認された導水路などと共に、施設の動力源として利用されていた水の流が少しずつ解明されつつあります。



※絵図を基に推定復元したもの



# 百聞は一見に如かず

埋蔵文化財センターでは「インターンシップ」を 8 月に実施し、高校生と大学生のそれぞれ 1 名が参加しました。これは、県教育委員会の「未来を拓くキャリア教育推進事業」の一つとして、今年度も県内 84 事業所で 7・8 月を中心に実施されています。当センターでは、日常進められているいろいろな業務を実際に取り組んでいきました。センター内での整理作業として土器の水洗いや接合、注記、拓本だけではなく、木佐木原遺跡での発掘調査にも炎天下の中、終日携わりました。また、情報処理室や図書室、分析室など南の縄文調査室の業務についても職員と一緒に進めました。初めて行うことばかりで戸惑うことも多かったようですが、次第に慣れてきて時間を忘れるほど一生懸命取り組んでいました。この 3 日間で体験したことは、今後の学校生活や進路選択などにきっと役立つことでしょう。

また、学校の先生方を対象とした「フレッシュ研修」「パワーアップ研修」と、市町村教育委員会の職員の方々を対象とした「埋蔵文化財専門職員養成講座（初級・中級）」が 7・8 月に行われました。鹿児島の文化や遺跡に関する講義やセンター内での整理作業、発掘調査中の遺跡での実習など多岐にわたる体験を通して、これからの授業や業務に生かせる知識やヒント等を見つけられたのではないかと思います。



# 第 47 回企画展 近代化の一翼を担った薩摩焼 ~その技術と伝統~

平成 28 年 11 月 25 日（金）から平成 29 年 3 月 20 日（月・祝）まで、上野原縄文の森で第 47 回企画展「近代化の一翼を担った薩摩焼～その技術と伝統～」を開催します。

島津義弘の時代に始まる薩摩焼は、身近な日用品から大名家などに贈答・献上された茶道具や器、見事な装飾が施された金欄手など県内各地で多様な発展を遂げました。また、薩摩焼の技術は幕末に、島津斉彬が取り組んだ集成館事業のなかで大きな役割を果たした反射炉の耐火煉瓦作成にも活かされました。その技術や 400 年を超える歴史・伝統を、伝世品や県内各地の発掘調査で得られた出土資料を基に紹介します。

開催期間中に、粘土でオリジナルの焼き物を作るワークショップや外部講師による企画展講演会が各 1 回ずつ計画されています。日時や詳しい内容については上野原縄文の森のホームページをご覧ください。また、企画展記念ミュージアムグッズとして、ミニチュアの薩摩焼（黒じよか・白じよか）を販売します。

慶応 4（1867）年に、パリ万国博覧会に出品されてから世界に認められた薩摩焼。その歴史を堪能できる絶好の機会ですので、ぜひ上野原縄文の森まで足をお運びください。



※第46回企画展の様子

# 発見！発掘速報

昨年度、発掘調査が行われた、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。



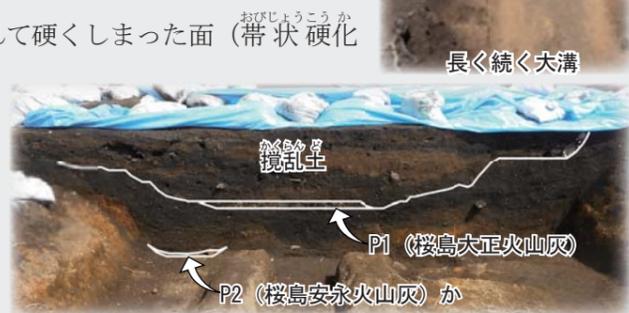
（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターの発掘調査

## 明治時代も使われた大溝

～小牧古墳群(志布志市)～



長く続く大溝



小牧古墳群では、現在、縄文時代早期と中世～近世・近代の遺構・遺物が発見されています。

縄文時代早期については、集石、土坑などの遺構や、土器や石鏃、礫器などの遺物が発見されています。

中世～近世・近代については、大溝と踏み固められて硬くしまった面（帯状硬化面）が発見されました。特に、大溝はその埋土の中に、桜島起源の火山灰であるP1とP2が確認されています。P1は埋土の中位で認められるもので、大正3（1914）年のものです。P2は埋土のもっとも下で確認されるもので、安永8（1779）年のものです。あわせて、底面には幾重にも重なった帯状硬化面が確認されており、人々が往来する「道」であったことがわかります。このことから、少なくとも江戸時代後期の頃には、この大溝は「道」として使われていたことが明らかとなりました。



上空から見た調査区

また、この大溝は明治時代の地図にも記載されている公道であったようで、小牧1号古墳が発見される契機となった昭和57（1982）年のシラス掘削工事での延長が切られていることから、その段階で役目を終えたとみられます。

現在は、切り立ったシラス台地の上に存在するこの大溝ですが、もともとは周囲の湿地を避けて、安楽川と平城集落とを結ぶゆるやかな傾斜の台地を通る「道」だったようです。それが、度重なるシラス採取や開発などによって分断されてその役目を終えたようです。

## 道？堀？用途不明の溝

～見帰遺跡(志布志市)～



見帰遺跡では、時期や用途が不明の大きな溝や縄文時代中期、縄文時代早期、旧石器時代の遺構や遺物が出土しました。

見帰遺跡は、平成25年度にも鹿児島県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行っており、今回は、そのすぐ隣を発掘調査しています。2回の発掘調査成果から、起伏の大きな地形を利用して縄文時代や旧石器時代の人々が生活していたことがわかりました。

また、平成25年度と今回の調査は、出土した遺構や遺物を正確に並べられるように同じ基準線で行った調査グリッド（1辺が10mの四角形を並べたもの）で行っています。



発見された溝



落とし穴と思われる土坑



調査中の土坑

## 国分高校のルーツを探る！

～本御内遺跡(霧島市)～



国分高校グラウンドにおいて、6月に確認調査を行いました。確認調査とは、昔の人々が使った遺物や遺構の有無を確かめるため、2×3mほどのトレンチと呼ばれる坑を複数設定して調査するものです。その中の1つのトレンチより、古墳時代の成川式土器が出土しました。

国分高校と国分小学校の敷地は、江戸時代初め頃に造られた舞鶴城の跡地ですが、古墳時代にも活用されていたことがわかりました。



見学中の小学生

また、小学校に一番近い場所に設定したトレンチより、江戸時代終わり頃～明治時代にかけてと思われる土坑墓が検出されました。隣の国分小学校グラウンドは昔墓地だったという言い伝えがあったそうですが、それを裏付ける資料となりました。

来年度は本調査予定で、さらにたくさんの情報が得られることが期待されます。



集中して発見された土器



土坑墓の底

## 掘って、見て、触れて、感動いっぱいの発掘体験！

～木佐木原遺跡(始良市)～



土器の種類を教わっています

8月5日（金）と18日（木）の2回、始良市蒲生町の木佐木原遺跡で、始良市歴史民俗資料館主催の遺跡発掘体験が行われ、始良市内の小学生約36名が参加しました。

作業員さんと一緒になって、汗をかきながら発掘作業を行っている中、「うわ～！本物の土器が出てきた！」と歓声があちこちであがり、土器を手にした子供たちは、「きれいな模様がたくさんはいつているんだね。すご～い。」と目をキラキラと輝かせていました。「家に持って帰りたい」「まだ掘りたい」などの声もあがり、小学生にとって思い出に残る一日になったことと思います。



作業員さんに教わっています



丁寧に掘り出します

## どんな作物を育てていたのでしょうか？

～高野木遺跡(薩摩川内市)～



高野木遺跡は、川内川右岸に位置する細長く伸びる標高約5mの自然堤防上に立地しています。現在の地表面から約2m下から、昔の畑の跡の跡が発見されました。この畑跡は川内川に平行するように東西方向に走っていました。畑跡の時期については、周辺から遺物が出土していないため、残念ながら不明です。



畑の畝跡



畝跡の調査中

# 遺跡公開! 現地説明会開催

(公財)埋蔵文化財調査センター

## 小牧遺跡

東九州自動車道の建設に伴う発掘調査を行っている小牧遺跡(鹿屋市)で、9月17日に現地説明会が開催されました。

当日は、天気にも恵まれ200名を超す見学者が訪れ、興味深げに説明を聞いたり、遺物に見入ったりして、充実した時間を過ごしました。



出土品の展示



竪穴住居跡の説明



竪穴建物跡の説明



柱穴の様子



土器片



磨石



集石遺構の説明

昨年度、開催された現地説明会では縄文時代早期(約10,000～7,300年前)、縄文時代後期(約4,000年前)、古墳時代(約1,600年前)の遺構や遺物を紹介しましたが、今年度は中世(約600年前)の集落跡を中心に、縄文時代の生活跡の様子などを見学することができました。

中世の調査区では、規則正しく並んだ数多くの柱穴が発見されており、それを色分けした線をつないで建物の配置をわかりやすく示してありました。中には、軒をもっていた建物と思われるものや、斜めに重なった状態の柱穴の並びもあり、建て替えが行われていたことがわかります。これらのことから、この場所で長期間、人々の生活が営まれていたと思われ、見学者もどのような目的でこの場所に建てられたのか一段と興味を湧いてきていたようです。



柱穴の調査の様子



色分けされた柱穴群

縄文時代後期の調査区では、石皿や磨石、集石遺構の他に、いろいろな種類の土器等がまとまって出土している様子が見られました。土器片の一つひとつにも個性があり、それらを見比べていくと時間があっという間に過ぎていきました。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索



## 埋文だより 第71号

発行日 平成28年10月31日  
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市  
国分上野原縄文の森2番1号  
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>  
E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)